







column コラム

HIV は死を待つだけという一択の時代から時を経て、治療も予防方 法も大きく進歩した。HIV陽性ならばU=Uを目指すことができ、陰 性ならばコンドームだけでなくPrEPも使うことができる。新たな選択 肢のある時代になった。

自分に合った予防方法を選ぶことができ、相手にも選択肢がある。例 えば、「自分はPrEPを使ってコンドームなしでセックスしたいが、相手 はPrEPなしでコンドームを使ってしたいしとか、「自分はPrEPもコンド ームも使ってセックスしたいが、相手はU=Uでコンドームなしでした いしなど、さまざまな組み合わせがあり得る。選択肢が増えたことで、 お互いの選択を尊重して折り合いをつけることが、より重要になったの ではないだろうか。

この時代、キーとなるのはコンドームかもしれない。相手と柔軟に折り 合いをつけるために、コンドームという選択肢を手放さないほうがい いからだ。コンビネーション予防の時代だからこそ、梅毒などの性 感染症の流行が続いているいまだからこそ、コンドームについて再考 してみてはどうだろう。 矢島 嵩(1996年にHIV陽性告知)

community center akta

Tel......03-3226-8998 Fax----03-6380-0575 Mail---- office@akta.jp Web---akta.jp



こちらの資材は、「同性愛者等向け コミュニティセンターを活用した 広報等一式」の費用で作成されました 2025年2月 イラスト: そーちゃん



















(



コンビネーション予防の時代

個人ができること

これまではコンドームが主な予防方法でしたが、現在ではさまざま な予防方法とその組み合わせを利用することができます。

HIVだけでなく他の性感染症もかなり防ぐことが可能。 コンドーム PrEPのように前もって準備をする必要もなく、安価に 入手できる。

PrEP.

HIV感染リスクをほぼゼロにできるが、他の性感染症 を防げない。HIV陰性と確認できている人のみが利用 可能。HIV検査などとセットで行う必要がある。

U=U

HIV検査で陽性とわかったら、適切な治療をしてウイ ルス量を検出限界未満の状態を続けることで、セック スの相手に感染しない状態になれる。

定期的な HIV 検査

HIV 陰性でも HIV 陽性でも、自分の今の状態を早めに 知ることが、いままで以上に重要! HIV 検査がどの予 防方法を選択するかを考える出発点になるからです。

HIV陽性の場合



継続的な治療でU=Uを目指すことが できる

HIV陰性の場合



PrEPを含めた予防の組み合わせを 検討できる

陽性か陰性か わからない場合



U=Uを目指せないしPrEPも使えない。 コンドームを使うことができる

ツールを牛かす

- コンドームとローション
 - PrFP ≿ PFP
- 定期的な HIV 検査
- すべてのHIV 陽性者の 治療成功(U=U)

環境を変える

- ●HIV検査を 受けやすくする
- ●治療を受けやすくする
- ●スティグマや差別を減らす
- ●マイノリティの人権を 守る法整備

コンビネーション予防

行動を支える

- ●相談やカウンセリング
 - ●包括的な性教育
 - ●性の健康の
- 増進プロモーション



コンビネーション予防とは?

ツールを生かす 環境を変える 行動を支える

といった複数のHIV予防を組み合わせて、

個人~社会全体で効果的に予防が進むよう

に取り組んでいこうという考え方のことです。

検査・治療を受けやすい環境作り、HIVやセクシュアルマイノリティ等 のスティグマ軽減、相談や性教育の機会を適切に設けることなども重 要なHIV予防の要素です。











(